

坂本小学校だよい

平成30年 1月12日

第9号 文責 上森

新年のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。お正月はどのように過ごされましたか。今年の暮れから三が日までは、何となく暖かな日が多く、活動的に過ごされた方もたくさんいらっしゃったのではないかでしょうか。まず、新しい年を迎える児童36名と職員12名が全員そろって元気に三学期をスタートすることができましたことをご報告いたします。

さて、毎年思うことですが、年の暮れや年の初めに事件・事故で命を落とされる方が残念ながらいらっしゃいます。さぞかし無念だっただろうと、亡くなられた本人、そしてそのご家族の心中をお察しすると、いたたまれない気持ちになります。「命」には、「生まれくる命」「今を生きる命」「消えゆく命」という三つの側面があると思うのですが、今年は、ぜひ、改めて命の尊さを考えて直してみる年にしたいものだと思っています。特に、平成21年度以降、減少はしているものの、未だに多くの方が自殺という悲しい選択をしてしまうという事実は、決して看過できないものがあります。

私たちは遠い祖先から何代もバトンタッチされてきた「命のバトン」を受け継ぐランナーだと言えます。次の世代にバトンを渡すという大切な使命をもっています。決してアンカーになることを自ら選んではいけないです。どんな理由があれ、自分から命を絶つという自殺という選択は「命のバトン」を放り投げてしまうことであり、これまで延々とつないできた命を断ち切るとても悲しい行為です。

昨年の12月、児童に「いじめに関するアンケート」を実施しました。いじめとして学校が認識しな



ければならない事例は、今回はありませんでしたが、我々は常にいじめがあるものとして子どもたちを見守っていきます。アンケート以外にも、児童と教師が一対一で行う教育相談も毎月実施しています。その中で見えてくることは、子ども達も大なり小なり悩みごとを抱えているということです。大人であっても同じことで、これは人間の宿命のようなものかもしれません。しかし、お互いに尊重し合い、その悩みを一緒に解決しようとするなら、必ずそこに活路が見いだされていくと信じます。そういう意味で、これからも子どもと保護者と教師の三者がお互いに情報を共有し合い、小さな悩みの内に解決できるようなネットワークをつくっていかなければ心強く思います。

県市町村対抗駅伝競走大会で大活躍！！

1月8日（月）の成人の日に、県市町村対抗駅伝競走大会が宮崎市を会場に行われました。本校からは、6年の○○○○君、○○○○君、○○○○さん、5年の○○○○さんの4名の児童が、この大会に向けて練習を積み重ねてきました。当日は、暖かい日和で駅伝には少々不向きのコンディションだったかもしれません。

○○○○君は1区という大切な区間を任せられました。スタート前に選手名がコールされましたが、昨年の○○○○君と同様にとても元気のよい返事でした。8区の○○○○さん、そしてそのサポートをしてくれた○○○○さん、9区の○○○○君と全員でこの大会を盛り上げてくれました。緊張はしていたものの、練習からこの日まで、本当に頑張っていました。

地域の方々の活躍も素晴らしかったです。監督を務められた○○○○さん、2区を走られた○○○○さんや6区を走られた○○○○さんをはじめ、坂本地域関係のすべての選手の方々、今年もさわやかな感動をありがとうございました。



坂本小の当たり前

2学期の終業式の際、子どもたちに次のような話をしました。

先生は、これまで12校の学校に勤めてきました。その中で、一つ一つの学校にその学校の当たり前があることに気付きました。ある学校では、友達を呼び捨てするのが当たり前。でも、別な学校では友達には君とさんをつけるのが当たり前なんです。この当たり前には、よい当たり前と悪い当たり前があるんです。よい当たり前には、こんなよいことがあります。呼び捨てするのが当たり前の学校から、君・さんをつけるのが当たり前の学校に転校したら、あら不思議、その子は呼び捨てをしなくなつたんです。その子は、学校によってよい方に変わることができた、成長したことです。

この当たり前は、校風と言い換えてもいいかもしれません。坂本小学校には、「高学年が下級生のお世話をするのが当たり前」という校風があります。29年度の残り3か月、たくさんの坂本小学校の当たり前をつくっていこうと子どもたちと確認したところです。

教育の名言

子どもは、さまざまなお八つを食べて大人になる。

～向田 邦子「父の詫び状」お八つの時間より～

この本の中で向田さんは昭和10年頃の中流家庭の子どものお八つを数え上げていきます。そこに浮かび上るのは子どもに向かう父母や祖母の姿であり、子どもをかけがえのない存在として育てていく家庭の在り方です。「子どもは、さまざまなお八つを食べて大きくなる。」という、この言葉の後はこう続きます。「『何を食べたか言ってごらん。あなたという人間を当ててみせよう。』と言ったのは、たしかブリア・サヴァランだったと思うが、子ども時代にどんなお八つを食べたか、それはその人間の精神と無縁ではないような気がする。」

子どもたちの健闘を称えます。

◇読売学生書展条幅の部

特選	6年 ○○ ○○	さん
金賞	4年 ○○ ○○	君

〃	6年 ○○ ○○	さん
銀賞	6年 ○○ ○○	さん
〃	6年 ○○ ○○	さん

◇読売学生書展半紙の部

金賞	2年 ○○ ○○	さん
銀賞	2年 ○○ ○○	さん
〃	3年 ○○ ○○	君
銅賞	3年 ○○ ○○	君

◇宮日文芸新春子ども作品俳句の部

特選	1年 ○○ ○○	君
----	----------	---

おまけ 頭の体操

問題1 (市川中入試問題)

現在、私の家族は私・両親・弟の4人です。4人の年齢を足すと102歳です。

5年前は祖母がいたので5人の年齢を足すと147歳でした。

① 5年前の祖母の年齢は何歳ですか？

答え 歳

② 10年前は弟が生まれていなかったので、私・両親・祖母の4人の年齢を足すと123歳でした。現在の弟の年齢は何歳ですか？ 答え 歳

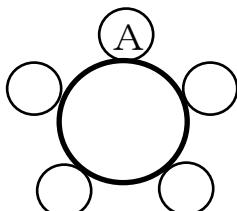
問題2 (東洋大学附属浦安中入試問題)

次の条件でA、B、C、D、Eの5人が丸テーブルに座りました。Eの右どなりは誰でしょう？

〈条件〉

- ・ Aの右どなりがC
- ・ BとCはとなり合っていない
- ・ Dの左どなりがB

答え



※ 今回の問題1は、少々イライラするかもしれません。そこを何とか頑張ってみてください。そして、問題2ですっきりしましょう。答えがお分かりになられたら、学校まで連絡ください。(問題1の祖母は、お亡くなりになったことになっておりますが、架空の問題ですのでお許しください。)

坂本小学校の合言葉

あ あかるく
し しんけんに
た たくましく

